月間市況等報告集計表(5年5月分)

1. 生鮮食料品等の市況

富山中央青果株式会社

(1)市況の概要

※. 入荷数量=t 比=% 平均単価=円

種類	市況の概要	入荷数量		kg当り 平均単価	前年同月比前月比
	5月に入り気温が30℃を超す暑さになる事や山間部では霜が降りる日もあるなど寒暖差の激GW前は野菜全般に需要が高まり相場上昇するも、連休明けは需要が落ち着き、多品目でえなった。		-	湯は下に 227	デ基調と 82% 89%
	国内果実は5月に入るとイチゴの販売は終盤を迎え、すいかは熊本中心の販売となり、メロン 桃などのハウス物の出荷も始まり、終わりの商品と始まりの商品が入り乱れる5月であった。 外果はチェリー・パイン・キウイ・バナナ中心の販売となり、順調な入荷であった。	グ類も順 を 881	調な出荷 94% 108%	さなった 345	上。桜桃· 104% 96%

(2) 主要品目の市況

※. 入荷数量=t 平均単価=円 比=%

Ë	主要品目	市 況 の 概 要	入荷数量	前年同月比 前月比	kg当り 平均単価	前年同月比前月比
野菜	だいこん	月替わりで産地の切り替えにより入荷減少し、千葉中心の販売も上旬は少なく、GW明けてから安定した。GW明けからは富山産の入荷も始まり、下旬には青森産の出荷もあり販売安定し、単価も千葉の品質低下から富山・青森産は平年並みに推移した。	92	93%	107	75% 86%
	きゅうり	高知・群馬・富山・福島産販売であった。入荷量は多くなく、経費上がる中で加温控えで朝晩の冷え込み等の影響受け出荷量にバラつきもみえた。単価も平年並みで昨年より下がる展開となった。	128	97% 117%	246	95% 79%
	なす	高知中心販売で天候不順から多くないが、単価持ち上がらず安定販売であった。 関東圏の産地(ハウス)も始まり単価は持ち上がったが入荷は平年より減少した。	68	89% 97%	334	91%
	とまと	岐阜・愛知産販売。気温上昇と共に大玉傾向の出荷であり、回転数も上昇し市場流 通は日々増加傾向になった。ただし箱数は増えたが、玉数は減少の産地状況で あった。その結果、数量増の単価高となった。	206	142% 145%	375	124% 82%
	馬鈴薯	鹿児島中心販売。前月の高値反動で荷動き鈍く、相場は軟調推移。 九州・東海産地も順調な出回りで単価安に。	225	147% 179%	126	82% 57%
果	甘夏 サンフルーツ	冬の寒波によって入荷が減となり、単価も強めで推移した。 熊本県産主体の入荷	13	65% 325%	218	103% 106%
	いちご	GW以降、品質が悪くなり単価で推移し、5月いっぱいまで数量が多く、厳しい販売となった。	40	182% 69%	991	99% 91%
実	サンふじ	青森県産の入荷。今年度産リンゴは品質が弱く、早めに終了する商人業者も多く、 有袋ふじへの切り替えが早く進んだため、サンふじは入荷減となった。	32	91% 76%	421	90% 127%
	すいか	熊本中心の販売で数量は本年多くなり、価格は安定していた。量販店の売り方はブロック中心となっており、荷動きは良くなかった。	47	138% 522%	322	101% 85%
	グレープ	トルコ産の入荷が昨年より少なく、カリフォルニア産のみでは補えなかった。	14	82% 108%	224	92% 119%

2. 取扱品目の卸売実績

(金額:税込み)

	-・・パが時日 -・・アパクログベルグ							
	種 類	数 量 (kg)		金額(円)				
1里 积		受託	買付	計	受託	買付	計	
	一般野菜	1,377,454	543,479	1,920,933	338,853,649	132,699,688	471,553,337	
野	加工野菜			0			0	
	花き							
菜	その他							
	冷凍食品							
	計	1,377,454	543,479	1,920,933	338,853,649	132,699,688	471,553,337	
果	一般果実	76,413	804,562	880,975	65,075,131	263,566,020	328,641,151	
	加工果実			0			0	
	その他							
実	冷凍食品							
	計	76,413	804,562	880,975	65,075,131	263,566,020	328,641,151	
合計		1,453,868	1,348,041	2,801,909	403,928,780	396,265,708	800,194,488	